

(社) 日本労働安全衛生コンサルタント会

神奈川支部ニュース

(第 24 号)

2006年 3月 1日

(社)日本労働安全衛生コンサルタント会
神奈川支部

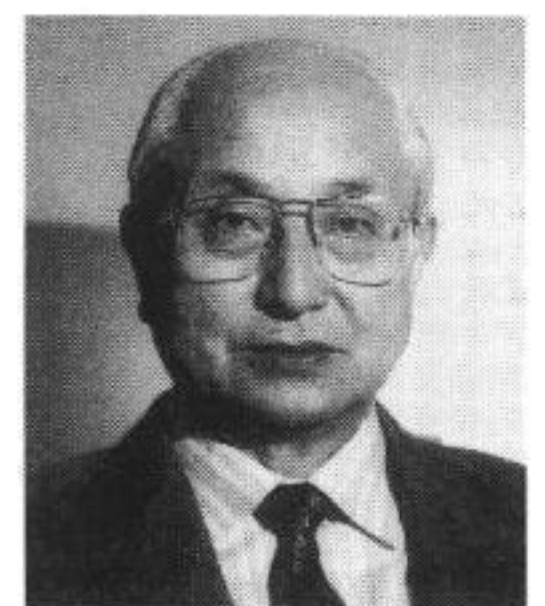
〒231- 横浜市中区寿町1-4
0026 かながわ労働プラザ7F
TEL 045-633-3618
e-mail : conkanashibu@ybb.ne.jp

広報委員会

印刷所：山京印刷所 045-261-9930



2006年 新年



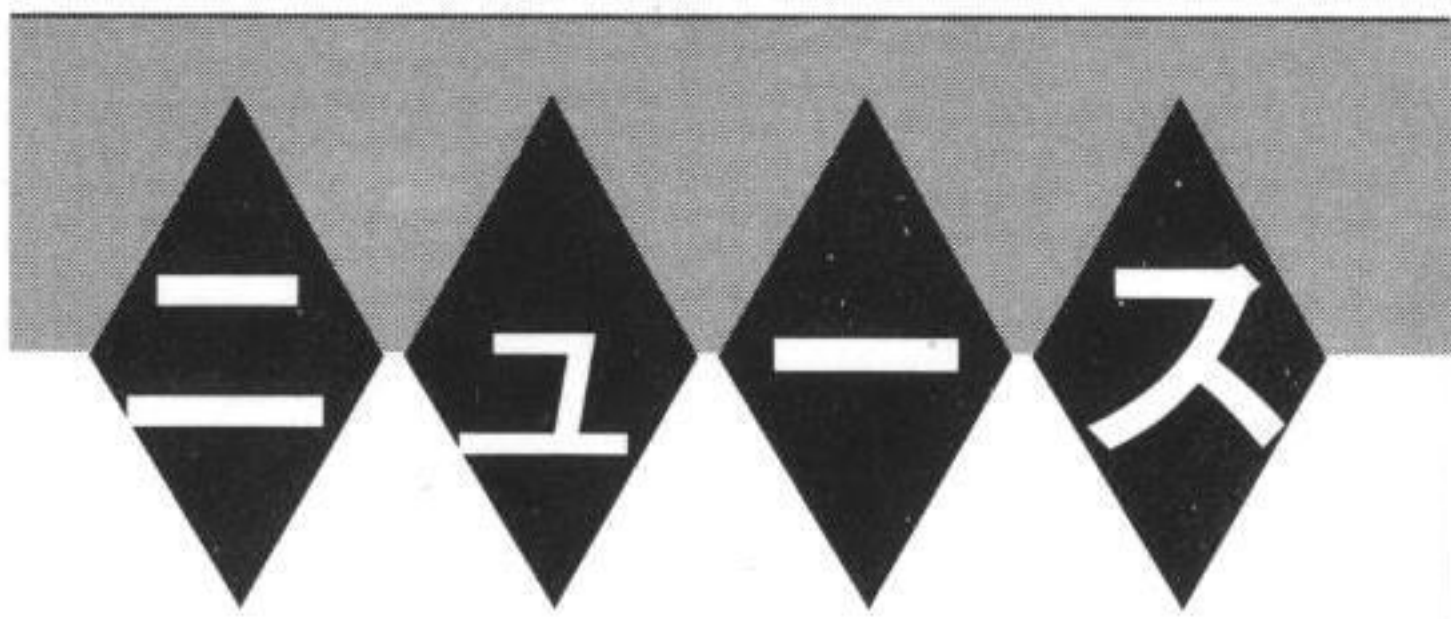
支部長 石渡弘一

新年明けましておめでとうござ
います。

厳しい寒さが続いております
が、会員の先生方には、ご健勝
にて新年を迎えられたことと思
います。初夢は如何でしたか？
さて、昨年の衆議院議員選挙は
小さな政府と改革を掲げた、小
泉自民党圧勝となりました。そ
れでは、われわれの仕事の環境
はどうなるのでしょうか。郵政
民営化に始まり、規制緩和・官
から民への流れは、例外なくあ
らゆる業界に及ぼうとしており
ます。例えば特別安全衛生診断
事業など行政からの仕事の流れ
が、今後増えるとは考えられま
せん。一方、今話題の「耐震強
度偽装問題」にみられるように、
民に移行すると倫理面も含めた
事故責任が強く求められます。
さらには、第三者による業務評
価を求められる傾向が窺えま
す。今、当面の行動は、仕事の
領域を拡大する為の広報の仕方
の工夫やユーザーのアウトカム
を求める姿勢が必要ではないで

しょうか。その為には、会員各
位の知恵と協力が欠かせませ
ん。支部長として、勿論頑張り
ますが、あたたかいご指導とご
鞭撻の程よろしくお願いいたし
ます。





衛生コンサルタント会

平成17年度後期事業部研修会は、1月28日(土)にかながわ労働プラザで開催された。その中から今回は、『人間の機能から安全を考える』との講演(石渡先生)を取りあげます。

本研修会は、医学的立場から考えた安全対策である。まず始めにパワーポイントで①事故防止は可能か②ヒューマンファクターとは③米国空軍の事故対策5M④人間の意識レベル⑤平成16年度の神奈川県災害分析の順に説明された。

その中で③では単にマン(人間)やマシン(機械)だ

けでなく事故はマネジメント(管理)メディア(労働環境)ミッション(任務)など総合的な対策が必要であると米空軍は認識しているそうです。

また④では大脳の状態が活発で適度な緊張感と注意力が発揮され予測と分析機能が発揮されるフェイズ3の状態をいかに持続できるかが問題であり、その分析方法として、BGMを流したり、午後2時半

平成17年度事業部研修会の中から『人間の機能から安全を考える』

すぎに清掃タイムなどをとりインターバルを置く必要性を強調された。

レジメに入り、産業構造の変化やリストラなどにより職場を取りまく状況は厳しいものがあり、高齢労働者には、低下した人間の五感を念頭にした安全対策を考えなければならぬ。働く人の運動機能の実態の中で①握力②上体おこし③閉眼片足立ち④最大酸素摂取量⑤BMI指数の中で特に⑤は男女とも50歳を過ぎると同じくらいになるが、最も重要な事は③の平衡機能の

低下で2m前後の低い所からの転落・転倒事故が多いのも、気の緩みだけの原因ではない様です。

また人間の刺激を受けてから脳に伝わる反射時間はどうか。

最低でも0.2秒以下にはならないといわれていますが、加齢とともに1秒以上になってしまつてとっさの判断で生命にも重大な影響をもたらします。

視力の特長も良く理解しておいた方が良いでしょう。視力が1.2の人はずべての視界が1.2と思いがちですが中心から10cmずれると視力は0.2ぐらいしか見えなくなるそうです。

特に人間の視野内の特性としては、良好な視野は座位では水平線から30度以下。立位では10度以内といわれています。VDT作業や、第1・2・3種といった有機溶剤のカラー標示

の位置にもその点を考慮していた方が良いでしょう。

人が外界からの情報を受けるとき、80%が視覚であるといわれています。

加齢による視力の低下と必要照度を考えると高齢者では若者の2倍の明るさが必要とする様です。また照度や輝度といった考え方も必要で、その結果職場の標示の文字が大きくなくなったり、清掃が必要に

なつたりします。

運動系の限界と問題点から考えますと、関節可動域から『通常作業域』『最大作業域』といった事を理解し、肘を中心とした『通常作業域』で作業すれば、疲れずに正確に長時間作業が続けられます。

最後に質の良い睡眠をとる事が、災害や健康障害を起さない近道です。

人口問題から必要となり、多くなつてきた高齢労働者の為の作業負担基準をほんの少し考えてみませんか。

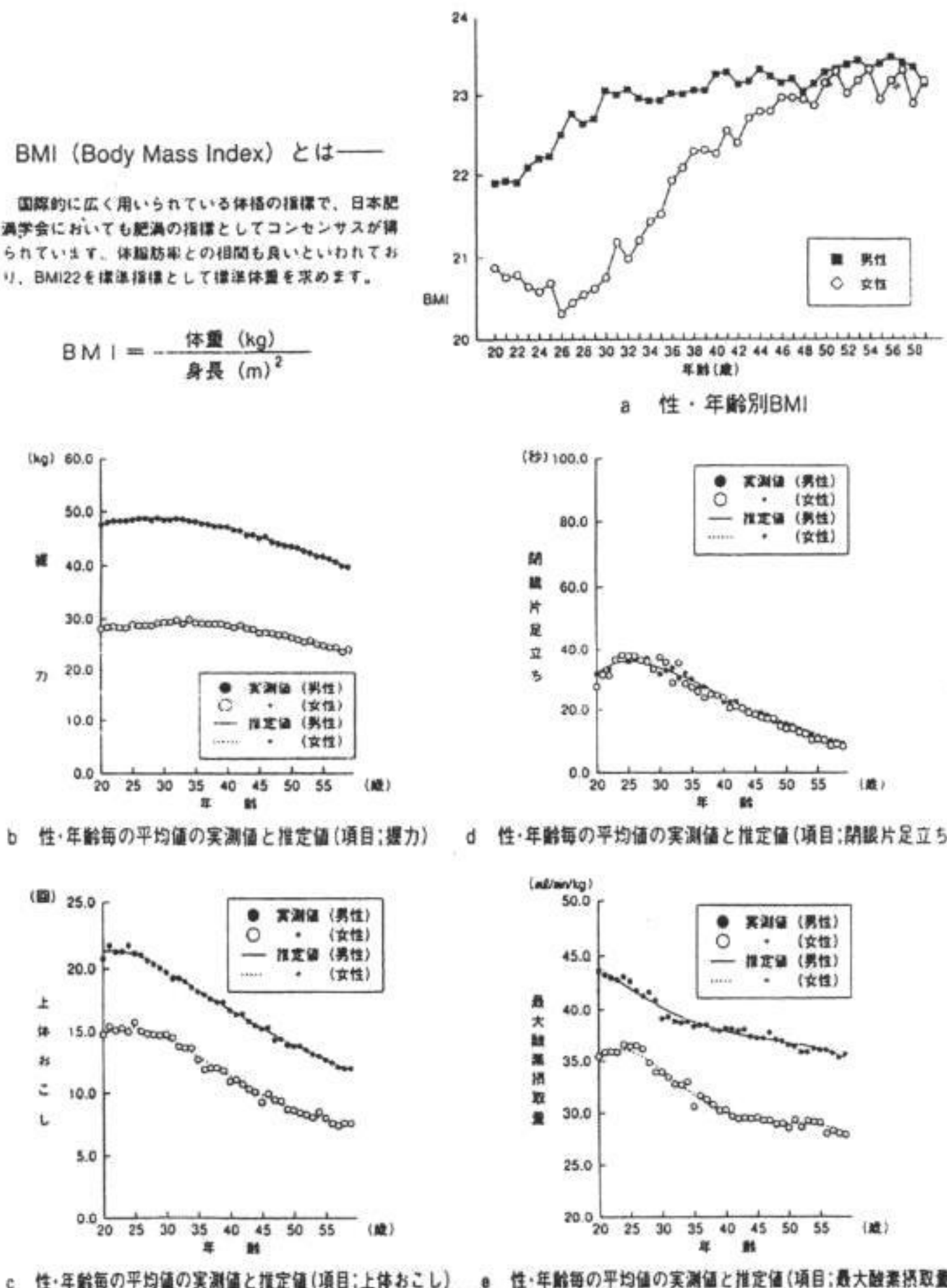


図1 働く人の運動機能検査値の実態

